

## 平成 21 年度環境科学センター研究推進委員会課題評価結果

### 4 電気探査技術の活用による最終処分場の安定化の状況把握手法及び浸出水処理施設の適正管理手法に関する研究

#### [総合評価とコメント]

- 廃棄物最終処分場からの安定化及び浸出水の管理は、廃棄物行政の遂行上、特に重要な課題の一つである。本研究課題は、県営の最終処分場を対象として、安定化の測定のための電気探査技術及び浸出水処理技術の効果把握を主眼としており、実用性を重視したテーマ設定であるといえる。  
現場のニーズに直結したテーマ設定であることから、将来性、発展性については重視されていないのはやむを得ないことではあるが、研究課題として取り組む以上、何らかの形で将来につなげることを常に考慮されることを期待したい。
- 廃棄物最終処分場は人間活動の末端に位置し自然環境と密接に関わる施設である。したがってこれを適正に管理することは自然と調和しながら豊かな暮らしを続けていく上で重要である。  
しかし、処分場は一旦埋めてしまうと中の様子が分かりにくく、また、時間とともに性状が変化していくため、状況に応じて適正管理を図ることは容易ではない。この研究は非破壊検査手法のひとつである電気探査技術を利用して処分場の安定度を把握する手法を確立しようというもので、これが成功すれば処分場の適正管理に資するところが大きい。  
時期的に運用中の「かながわ環境整備センター」のデータを活用できるということもあり、研究を実施するタイミングとしては非常に適当である。  
この研究の成果は、上記センターはもちろんのこと神奈川県内処分場の実務に役立つものと考えられる。さらには全国に対する波及効果も期待できる。
- 廃棄物問題の研究課題として、一定の意義のあるテーマだと思いますが、もっと他に、減量やリサイクルにつながるようなテーマ設定はできないでしょうか。
- 研究対象とするのに適した処分場があるということであれば、検討することに賛成する。しかし、電気探査の結果だけで処分場廃止の決定が下すことが本当に可能になるのか、疑問符がつく。この一例だけではそこまでは無理なのではなかろうか。今回は基礎的な情報の集積に期待する。
- 廃棄物最終処分場の安定化状況の把握は社会ニーズの高い重要な研究である。  
電気探査技術は管理型廃棄物処分場の安定化状況把握に有効であり、センターの独自開発技術として実用化が期待される。  
浸出水処理施設の処理水水質の問題は既存施設の維持管理方法改善だけでは解決できず、設備の改造が必要になることも考えられる。
- 廃棄物処理の継続的監視は、不可欠な業務であるが、必ずしも十分とは言えないのが現状である。本研究は、比較的簡便な手法を活用して適性管理を図るものであり、有用な意義を有すると考えられる。

#### (数値的評価)

★評価者 6 名

〈評価の内容〉	〈評価項目〉	〈ランク〉					
課題設定の妥当性	○背景と必要性	5 (3人)	4 (1人)	3 (2人)	2 (0人)	1 (0人)	
	○優先性	5 (3人)	4 (1人)	3 (2人)	2 (0人)	1 (0人)	
計画の立案と実施方法	○研究内容	5 (1人)	4 (2人)	3 (3人)	2 (0人)	1 (0人)	
	○計画の妥当性	5 (0人)	4 (4人)	3 (2人)	2 (0人)	1 (0人)	

※ランクは、5点満点の評価で5 (優) ~ 1 (劣)